一誌一句（受贈誌９・10月号他より）

米田　透　抄出

自然壕深く命の地下清水　（ＷＡ）　上地　安智

初見えの果物で知る秋立つを　（群　落）　西沢　　進

退院やかぼちやほつくりおいしくて　（　麻　）　嶋田　麻紀

シルル紀もカンブリア紀も星月夜　（雪　華）　橋本　喜夫

コロナワクチンほてる身に青葉風　（風　羅）　三木　星童

ゆく夏のしづかに速き持ち時間　（　沖　）　能村　研三

十月の空の明るさ一夜旅　（　波　）　山田　貴世

星冴ゆる星の寿命の果つるとき　（諷　詠）　和田　華凛

火口灼けて噴きし硫黄を華となす　（多　磨）　関　　成美

秋の海はだし入るれば扉開く　（春　嶺）　伊藤　晴子